

卷

頭

言

箕輪成男

神奈川大学国際経営研究所は、経営学部全教員と研究所専任研究員によって構成される、国際経営学研究所のための機構である。それは教育を担当する経営学部と共に車の両輪を成している。

ここでいう国際経営学の目指すものは狭義の経営学ではない。重点はむしろ国際にある。本来地域性、文化性をもつ経営の技術・制度と構成員が、様々な形で異文化と接触する国際経営においては、文化摩擦の発生が避け難いが、われわれはそうした文化摩擦を、かつて幻想された普遍的真理としての経営学への収斂によってでなく、文化の多様性への対応という、拡散の方向で解決することを迫られているのである。

国際経営の焦点は、このようにして異文化への対応、異文化とのコミュニケーションにあるが、このことは日本の場合必ずしも容易ではない。個人主義や宗教という明確な基準・理念を欠く日本人が、第一に発信者として機能することに困難を伴うからであり、第二に世界市民としての信頼と尊敬を得にくいからである。しかし二一世紀を目前に、いま人類が平和と開発、資源と環境という難問をかかえ、各地で動揺を繰返しながらも地球共同体の調和的発展を目指して前進しているとき、われわれは自らを鍛え直すことによって人類の前進に真に貢献しうる日本の国際経営を創り出さなければならないのである。

このように考えてみると、国際経営学が単なる経営学を超えた、人文・社会・自然すべての学問を包摂する学際的な領域として構想されていることがわかるだろう。壮大な構想のもと、わが研究所に結集したユニークな背景をもつ多彩な研究者集団の果敢な研究活動に期待したい。(みのわ・しげお／国際経営研究所長)